

〈主〉 〈な〉 〈記〉 〈事〉

2面 第19回定期総会  
 3面 北信越ブロックが厚生省と懇談  
 4面 総義歯シリーズ講演会 (1)  
 4面 金沢城跡地シンポジウム  
 6面 お訪ねします (荻野知己先生)

# 石川保険医新聞

発行所  
**石川県保険医協会**  
 金沢市尾張町1丁目9番11号  
 〒920 尾張町レジデンス2F  
 電話 (0762) 22-5373番  
 発行人 平松昌司  
 印刷所 ユーアイ印刷

## 第19回定期総会'93年度スタート

### 700人会員達成で活動にはずみ 歯科加入率も5割目前



35人が出席して開かれた第19回定期総会

二月十三日、金沢都ホテルで保険医協会第十九回定期総会並びに懇親会が開かれた。懇親会では七百七人会員達成記念パーティーも兼ね、協会活動の充実とともに組織の拡大を祝った。

定期総会は歯科の江守理事の司会で進められた。最初に平松会長が「一九七五年に百四人で結成した協会が、現在七百七人を突破したことはたいへん喜ばしいことで、これは私たちの活動が内外ともに認められた結果であります。今後大切なことは、私たちは協会が何をしてくれるかを考えるのではなく、私たちは協会が何ができるのかを考えていかなければなりません」と、力強くあいさつ。続いて西村功先生(金沢市・内科)を議長に推薦し、議事が進行した。一九九二年度の活動報告は、高松副会長が「会員が七百七人を突破したことは大変な成果と言えます。そしてこの内二百人が歯科会員であり、歯科全体の五割の加入率に迫ったという点も大きな成果です」と、強調した。

一九九三年度の活動方針(案)は、安藤総務部長から提案された。特に内科・歯科ともに診療報酬改善運動を強化し、医療改善運動では市民と共に進めていくことが強調された。この後、出席者からは「一層の会員増加を図り、勤務医に対する協会の方針も積極的に議論すべき」「歯科からも副会長を選出できるように歯科部の一層の努力を」と、期待したいなど、今後の協会活動について積極的な意見・要望が出され、執行部からは、今後の活動に生かしたいと返答がなされた。引き続き、一九九二年度決算報告および一九九三年度予算(案)が西田理事から提案され、さらに加藤日出治先生と柳下邦男先生の理事退任に伴い、新たに徳田剛爾先生、魚谷浩平先生、の理事就任を含む役員改選および総会アピールについても総会議事はすべて満場一致で承認された。午後七時半からは、協会会員七百七人突破記念パーティーが行われ、来賓の栗森喬参議院議員および岡部雅夫県議会議員とともに懇親会を深めた。

### 1993年度

## 休業保障制度 いよいよ募集開始!!

今年度の休業保障制度の募集を四月一日(木)から五月二十六日(水)の期間に行います。新規加入・増口ともご加入・お問い合わせは協会までご連絡ください。  
 (☎〇七六二二二一五三七三番)

## 持論

二月十三日の石川協会定期総会は、同時に会員七百七人突破記念をも兼ねて開かれた。百人でスタートして、ちょうど十九年目で到達した数字である。

折しも、医療法改正の時期と重なり、大きく変動しようとする医療環境に、われわれがどのように対処し、何を要求していくのか、年間七千万円の予算を得た協会の力量が、今後否応なしに問われる重要な総会となった。ここで今一度、協会が掲げている基本姿勢を改めてみたい。保険医協会は、言うまでもなく国民皆保険を前提とした保険

医の団体である。「保険医の権利と生活を守り、国民に良い医療を行う」のが保団連の共通目的だが、石川協会は、さらに、要求する団体、医科歯科一体の

険点数や審査問題、その他多くの役割を果たしてきており、これからは、ますます複雑多面化する医療、福祉、保健の分野で、各方面への要求項目も一層増す

決すべき問題にも全力を挙げるのは当然である。政府、厚生省のなりふりかまわぬ医療費抑制策の中で、医療経営は苦しさを増し、ひいては国民の健康が懸念されはじめている今、今年度の最大要求目標に、国の医療費総枠の拡大、点数は正、診療報酬改善を掲げたのである。

しかし、どのような医療活動をするにせよ、医療、福祉、保健は国民のためにあることを絶対に忘れてはならない時代である。

## 医療・福祉・保健を守るため 国民とともに歩む

団体、問題提起・提言団体、研究・調査団体の四項目を基本理念としてはっきりうたってきた。とくに、要求団体としては、これまで診療報酬をはじめ、保

ものと考えられる。協会の社会的影響力を高め、要求が多く実現されるためにも、七百七人突破の意味は非常に重い。要求するばかりでなく、自ら解

国民の中に入り、ともに歩む保険医協会のめざし、精一杯の努力を傾けたい。

協会の会員数  
**708人**  
 医科 511人  
 歯科 197人  
 (3月10日現在)

## 医心凡話

つい最近の新聞で「グリーンGNP」という見慣れない言葉が目についた。日本は現在、経済成長が滞り不況だと騒いでいるが、このグリーンGNPは経済成長だけでなく経済活動による環境破壊などマイナス面も考慮して、国連が打ち出したきた環境経済統合勘定システムの一環として盛り込まれ、従来のGNPなどの指標は環境の劣化、健康に悪影響を及ぼすような天然資源の枯渇などの実態を反映していないとの批判にこたえた経済活動評価の指標にしようとするものである。このグリーンGNPは、「環境調整後国内純生産」と名付けられ、国内総生産(GDP)から石油、石炭、木材などの天然資源の枯渇額、大気汚染、水質汚濁や生態系の破壊などを防止したり回復させる費用などを差し引いてGDPに環境への負荷を反映させるものである。昨年六月、PKO問題で宮沢首相が出席できなかった「地球サミット」に関する朝日の社説の一節を引用させていた。 「地球の危機は、石油ショックのような突発的な危機ではない。静かに忍び寄り、気付いたときは手遅れになっている可能性がある。自分自身もうまいからといって、子や孫に汚れ切った地球を引き継いで、本当にいいのだろうか。」

# 石川県保険医協会

# 1993年度がスタート

写真で見ると  
第19回定期総会



議長を務めた  
西村 功先生



司会を務めた  
江守道子理事

祝辞をいただいた来賓のお二人



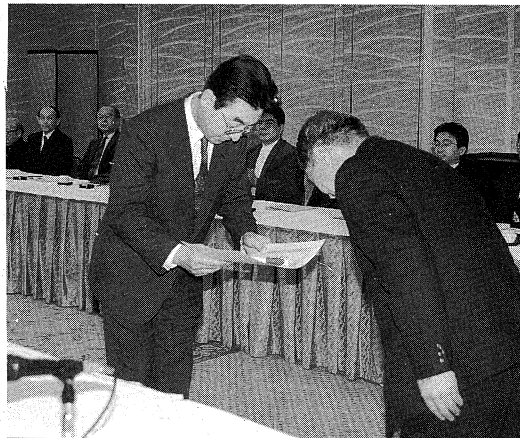
石川県議会議員 岡部雅夫氏



参議院議員 粟森 喬氏

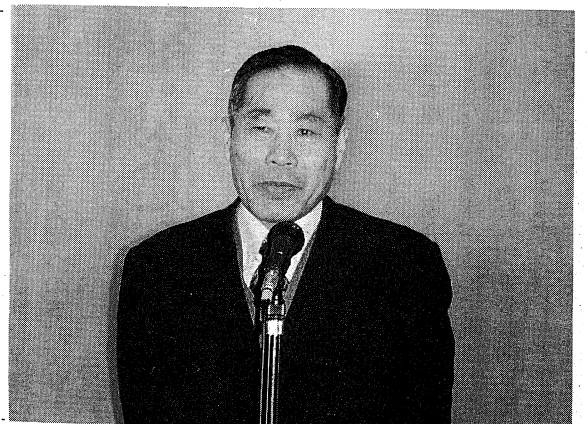


1992年度活動報告を  
提案する高松弘明副会長



井沢宏夫理事

さらなる発展をめざしてあいさ  
つする平松昌司会長



勤続十年表彰を受ける理事のお二人



1993年度活動方針(案)を  
提案する安藤良一理事



西村邦雄理事

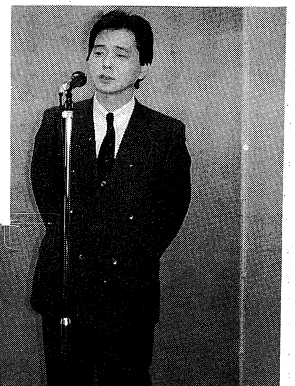
## 会員達成記念

新たに理事に  
なられたお二人



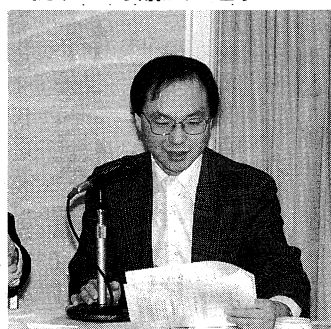
写真(上) 魚谷浩平理事

達成記念



写真(下) 徳田剛爾理事

議事提案



1992年度決算および  
1993年度予算の提案を  
する西田直巳理事

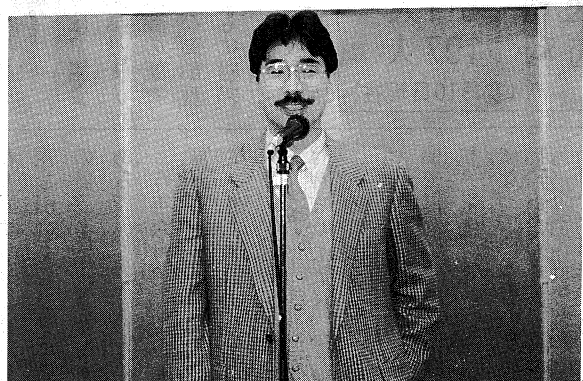


加藤日出治、柳下邦男(写真)両先生に  
感謝状が贈られた。

退任理事への感謝状授与



役員改選について提案  
する相良宝作理事



機関紙・文化部  
新部員

北山吉明先生 (金沢市・外科)



# さらに問題事例が...

## 協会に寄せられた黄色いハガキから

### 【問題事例 59】

#### 《事例》

初診時に行った処置を勝手に再診時に行ったものとして、外来管理加算を減点された。

#### 《主治医の意見》

最近、返却することなく直ちに減点する傾向あり。

#### 《コメント》

明らかな審査側の誤認と思われます。再審査請求をしてください。保険医協会では、返戻なしの査定をしないよう支払基金に再々要求しております。

### 【問題事例 60】

#### 《事例》

患者実日数5日で57×5=285点請求に、(F12)として-235点としてある。

同患者で脳動脈硬化症の病名で特定疾患療養指

導料を190×2=380点請求したら、(脳血管疾患)D13として-380点とされた。このような誤りは減点前に一応返却してくれたら防げるのではないかと。

#### 《コメント》

実日数5日で、再診の固定点数の誤り(F12)の返戻ですが、支払側の主旨が理解できません。病名に合致した特定疾患療養指導料の減点も同様です。再審査請求すべきものです。

### 【問題事例 61】

#### 《事例》

##### 返戻理由

①診療開始日からみて静注25×22日の投与はいかがでしょうか。

②「関節症」の病名について部位名、症状等ご教示ください。

#### 《主治医の意見》

内科専門なので膝が痛い人が来院すれば、膝関

節症、変形性関節症とか足関節症とかの病名を付けている。この患者は来院する度に膝関節痛あるいは肘関節痛、肩関節痛、腰痛等を訴えている。RA(-)、RAHA(-)なので病名つけがたく関節症とした。何百枚かある中でこの一例だけである。内服鎮痛剤投与するも副作用あり、注射すると疼痛が楽になるので、自家用運転できるもので、来院し、注射していた。それなのに備考欄に但し書きをしなければいけないのか。ザルソカインの注射の制限があるのでしょうか、ご教授願いたい。他の人にも腰痛症にてザルソカインを1カ月23回しているが、査定されていない。

#### 《コメント》

先生のご不満は十分推察しますが、関節症は症状名であり、病名ではないと審査側が判断したようです。病名と認めなかったため静注もチェックされたのでしょうか。病名と部位名を書かれて再提出されてはどうでしょうか。

◎黄色いハガキは、毎月「石川保険医新聞」に同封しております。不当あるいは疑問と思える審査結果について、どしどしご意見をお寄せください。

## 各部会役員名簿

(◎印は部長)

部名	氏名	
◎ 総務部 9人	弘明 一祐	
	松本 夫雄	
	高安 大勝	
	西井 小長	
	能登 直	
	田中 天江	
	佐々木 邦	
	杉本 康	
	中谷 幸	
◎ 財政部 7人	西田 直	
	大江 守	
	佐平 木	
	杉中 山	
	古大 谷	
	勝西 野	
	加藤 日	
◎ 営・経共 7人	藤田 正	
	西村 邦	
	大野 幸	
	西加 直	
	西八 野	
	相原 幸	
	原平 直	
◎ 学術・保 18人	尾多 東	
	喜中 正	
	徳西 直	
	西中 直	
	長能 康	
	早舟 浩	
	藤村 幸	
	大井 剛	
	喜徳 直	
	中舟 直	
	有西 邦	
	早稲 健	
	◎ 医療福祉部 9人	高小 弘
		安藤 良
		栗野 利
		大石 博
		北山 吉
		西村 明
林下 功		
柳下 茂		
柳下 男		

## 役員名簿

(任期・1993年2月13日～1995年2月定期総会)

役職名	氏名
会長	平松 昌司
副会長	大野 幸治
理事	高安 一夫
	安井 浩平
	魚谷 守
	江大 多
	大勝 喜
	喜小 森
	喜小 森
	喜小 森
	喜小 森
	喜小 森
	喜小 森
	喜小 森
監事	藤田 博之
名誉会長	後藤 登
顧問	登谷 栄
事務局長	神田 順一
税理士	中村 栄希

## 石川県保険医協会 第十九回定期総会

一九九三年二月十三日

### 【記】

石川県保険医協会は、保険医の生活と権利を守り、県民医療の向上をはかるために、日々努力した成果もあって、今年度は会員数七百人を突破するまでに成長した。

一方、政府は引き続き、国民医療費抑制策のもとに、医療法、健康保険法、診療報酬の改定を行って、公的保障制度と第一線医療の圧迫を推進しており、国民の生存権と健康権は大きく後退させられている。

われわれは、「公的保障で良い医療」を求める国民の期待をふまえて、地域医療の充実のため、今後も努力することを誓い、次の各項をアピールする。

- 一、保険医の権利と経営の向上のため、診療報酬の改善を要求する。
- 二、自己研鑽と地域医療活動の推進に努力し、第一線医療を担う保険医の役割を高める。
- 三、国の責任による社会保障制度の拡充を訴える。
- 四、平和憲法と民主主義を守る運動に参加する。

## 総会アピール

## 定期総会懇親会&700人会員達成記念パーティーのスナップ

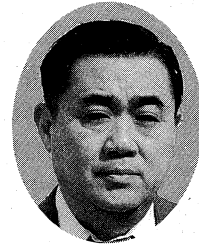




北信越5県から医師・事務局員が上京して厚生省と懇談  
あいさつするのは西野福井協会会長 (2月25日・厚生省共用第3会議室)

# 初めて実現した北信越ブロックによる 厚生省との懇談

福井県保険医協会会長 西野慎吾



西野慎吾先生

保団連北信越ブロックの各県代表十一人が二月十五日、厚生省を訪れ、「診療報酬制度における規制緩和」「診療報酬点数表の改正要望事項」について申し入れ、約二時間にわたり懇談した。  
厚生省からは、保険局医療課平野課長補佐ほか三人、老人健康福祉局老人保健課新木課長補佐ほか三人が出席して、要望事項について厚生省の考え方を説明し、「外用薬の五分分限度の見直し」や「請求明細書の提出締切日の延長」などについては前向きな回答を得た。(懇談会報告集を参照)

かねて懸案であった北信越ブロックと厚生省との懇談会を、二月二十五日に実現できたことは私どもの保険医運動にとって画期的なできごとであった。今後の

「保険医協会ならではの取り組みを進めるにあたって、意義深いと考える。過去、新潟県保険医会で、独自に厚生省との懇談の場を重ねてこられたが、その経験が今回の取り組みに生かされたと考えます。ブロックで取り組むに当たり、福井県保険医協会は福井県選出の牧野隆守衆議院議員の仲介を得て、準備を進めることができた。(一月中旬に申し入れてから、極めて迅速な対応・連絡調整をして頂いた)北信越では、協会ごとにバラバラに行動するのではなく、密に協力体制を取りながら事に当たるのは、歯科の初診・再診料引き上げの要求運動で経験済みである。ブロックによる厚生省との懇談は今回が初めてであったため、厚生省の説明・回答を、予定していた二十分を大幅に越えて聞くことになるなど、議論を私どもの意向する方向へと進める体制に甘さもあつたが、今後の対応の仕方を具体的にイメージすることができたことと前向きに考えたい。懇談の場でのやり取りで

は、あたかも国会審議の場を持つ担当者もあつた。で、閣僚や各省庁の局長クラスの答弁を聞いているような錯覚を覚えた。あらかじめ用意された回答を繰り返されるため、議論として展開しない場面では、地団駄を踏む思いもした。一方では、確かに型通りの答弁ではあつても、「聞く耳」  
この集いの主な目的は、全国各地の核戦争を防止する医師の会における活動報告と交流に次いで、記念講演による学習、および今後の活動課題の確認であった。一日目の主催者報告は、石川から「核戦争を防止する石川医師の会」を代表して登谷、勘、白崎、安藤各医師が出席した。  
所村核燃施設、新潟の非核シンポ、京都でのカザフ共和国の学者による講演、近畿各県共催の懇談会、福岡の被爆者健康アンケートなどの話題であった。石川からは登谷医師が報告に立った。  
二日目の二人の演者による記念講演は、いずれも今回の報告で特に注目されたのは、青森県の六ヶ

## 報告 第4回核戦争に反対し核兵器の廃絶を求める医師・医学者の集い 危ぶまれる世界の核情況 日本の医師に期待集まる

安藤良一 (金沢市・内科)

二月二十七日、二十八日の両日、チサンホテル神戸(神戸市内)で、「第4回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者の集い」が開かれた。全国各地で核兵器廃絶のために活躍する医師・医学者ら百六十人が出席し、これまでの各県での活動の交流や、被爆者援護法制定運動と核実験および原発被災者への援護活動について今後の具体策を話し合った。  
石川県からは「核戦争を防止する石川医師の会」を代表して登谷、勘、白崎、安藤各医師が出席した。  
この集いの主な目的は、全国各地の核戦争を防止する医師の会における活動報告と交流に次いで、記念講演による学習、および今後の活動課題の確認であった。一日目の主催者報告は、石川から「核戦争を防止する石川医師の会」を代表して登谷、勘、白崎、安藤各医師が出席した。  
所村核燃施設、新潟の非核シンポ、京都でのカザフ共和国の学者による講演、近畿各県共催の懇談会、福岡の被爆者健康アンケートなどの話題であった。石川からは登谷医師が報告に立った。  
二日目の二人の演者による記念講演は、いずれも今回の報告で特に注目されたのは、青森県の六ヶ



石川を代表して発言する登谷先生 (2月27・28日、チサンホテル神戸)

から日本は政治力・経済力・軍事を期待してゆこうが、日本はその負担に耐えられるだろうか。PKOについては民間のモニタリングが絶対に必要と思う。次に日本のプルトニウム問題にふれる。計算では現在日本に約一・九トンのプルトニウムが残っており、これから十年間で五十四トンが再処理され、二千年までに約四十四トンが残ります。この多量のプルトニウム保有に對してその安全性への危惧のみならず、核軍力の潜在に對し、アジア諸国の警戒心は強く、地域の核装備を正当化ささねないものである。日本は高速増殖炉を停止し、軽水炉を漸廃し、欧州からの入荷をやめ、原子炉以外の新エネルギー開発に努力して、他のエネルギー供給国との相互依存を考えてゆくべきである。  
記念講演の要旨は以上であるが、最後に、旧ソ連の核実験被害地を視察してこられた三人の女性医師からそれぞれ熱っぽい体験報告と救済への要請があつて、過去三回の大会には見られなかつたほどの実り多い集

誠意を持って事に当たれば通ずるものがあると確信を得た思いである。今後、こうしたブロックレベルでの直接的な取り組みを広く、継続的に積み重ねれば、厚生省にも私どもの姿が見え、具体的な成果につながると思う。

見されつつある。日本の医師・医学者がその救済にも大きな力を発揮することを期待している。  
二人目の演者は、ノーチラス太平洋学術研究団団理の長、ピーター・ヘイズ氏で「アジア太平洋地域における核超大国の戦略と軍事基地」と題する講演であつた。その要旨は、今やロシアの軍備は陳旧化し、軍艦の廃船、原子炉と核燃料の撤去の専門知識にも欠け、軍人も民間人もかなり放射能を浴びている。経済的破局も重なって、アジア地域の援助を必要としている。核廃棄物の海上投棄は直ちにやめさせなければならぬ。原発や核兵器の破壊を監視し、核軍力の回復を阻止しなければならぬ。一方、米国に関する重要な問題は、前進基地問題とその環境汚染である。ソ連消滅の今、日米同盟はその正当化の根拠を失った。しかし日本は安保問題を避けて通り、米国はターゲットを第三世界にしばっている。南北朝鮮が統一して核兵器を持つば、やはり核抑止力が必要と考えている。これ

### 囲碁解答

黒1が好手です。実は白4は6と打ち、黒は4と左方に渡ることになります。



# 総義歯シリーズ講演会—第一回—

## テーマ：印象採得

### 難症例、下顎総義歯の印象採得のデモから学ぶ

木村兼朗 (金沢市・歯科)



(株)佐波宇野を会場に開かれた総義歯シリーズ講演会  
講師の内田先生(左)から印象採得について真剣に学ぶ参加者

二月二十日(土)午後六時から九時まで、(株)佐波宇野の二階研修室において、総義歯シリーズ講演会の第一回目が開かれました。講師に東京医科歯科大学歯学部高齢者歯科学教室の内田博之先生をお迎えして、歯科医師二十人、技工士十人が参加しました。総義歯製作のステップの中でも、とりわけ重要な「印象採得」と「咬合採得」に絞って、実際に患者さんの治療を進めながら、その解説を

される三回シリーズ。その第一回目として、この日は予備印象、筋圧形成、最終印象のデモが行われました。お呼びした患者さんは、下顎の骨吸収が著しい方で、口腔内を見れば一目で、これは難しいなと誰もが思えるような顎堤の方でした。内田先生が言われるには、もちろん顎堤の吸収が著しいのは難症例にちがいはないが、本当に難しくして逃げ出したくなる症例というの

は、唾液のほとんどない口腔乾燥症のお年寄りや、舌の位置が定まらなかつたり後退させる癖のある方や、義歯に対する要求が高すぎる患者さんだと話されました。最初に、良い義歯を作るためには、まず良い模型を作らなければならぬという

ことを強調されました。そのためには予備印象をしっかりと採らなければなりません。即製トレーを調整し、ユニティリテーワークスをまいて採ります。スナップだからこんなもので良いだろうという考えは持たないで、顎舌骨筋線や白後隆起などがしっかりと採れないならば、採り直すべきであると言われました。

わずかの保険点数なのに採り直すなんて思えるかもしれないが、次の筋圧形成での時間が短縮できることを考えるなら、ちゃんとした個人トレーが作れるだけのスナップを採るようにした方がよいのではないかとのことでした。下顎の個人トレーには必ずフィンガーレストを付けるべきであり、内田先生の作られた個人トレーは、フィンガーレストがロウ堤のような形をした独特のものでした。そのようなトレーにする利点についてご教授されました。

そして筋圧形成です。コンパウンドはカーのレッドを使用し、下顎側は三分割、舌側は二分割でコンパウンドを盛っていきます。スナップ印象で impression taking して作製した模型を見ながら、義歯をイメージして、コンパウンドで、impression making していけます。Final の Wash impression は通常はインプレッションベースを使用します。しかし、この患者さんのように吸収が著しい場合は、ラバーの方が良いとのことでした。ただし、ラバーで最終印象をする場合の注意点として、必要以上で大きな印象になりがちであると指摘されました。

無圧か加圧かといった点に關してもいろいろお話ししてくださいましたが、本当の意味で無圧印象を採ろうと思うなら患者さんに二日程前から義歯をはずしていただく必要があるので実際には無理なことである、と話された点が私は興味深く思えました。最後に、スケートデンチャーでは困るが、必要箇所を覆ったうえで可能な限り小さい義歯を患者さんは望むものである。義歯は、しよせん口腔内の異物であり、小さいほうが患者さんには快適であることを忘れなようにしたいと言われました。それで上顎の人工歯を歯槽頂上に配列したので

は、舌房がせまくなり、患者さんにとって心地良くない義歯になるケースが多いという点にも触れられました。義歯は保険では採算の合わない代表的な部門で、すし、大学で行われている方法をそのまま明日からの診療に取り入れることの難しい点があるのは確かですが、難症例総義歯において、より良いものを作製するためにどのように印象を採るべきかについて多くを学べた講演会でした。ゴシックマーチと咬合採得のデモが予定されている二回目、三回目を楽しみにしたいと思います。

## 「保険で良い入れ歯を」運動で 高齢者ら30人対象に学習会

二月十九日、当会理事の江守道子先生(金沢市・歯科)が講師となり「入れ歯のはなし」学習会が開かれた。学習会を呼びかけたのは、毎年夏に高齢者大会を開き、高齢者の要求をまとめて石川県や金沢市に申し入れて、高齢者運動連絡会で、三十人の参加があった。

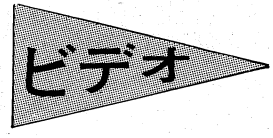
江守理事は、まず保団連歯科協議会が作成したパンフレットやスライドを用いて、NHK特集がきっかけとなって、現在までに「保

険で良い入れ歯を求め」意見書が全国四百十二自治体で採択されていることを紹介。石川県でも今後、「入れ歯」運動を進めるにあたり、噛むことと健康の関わり、なぜ現行の保険点数で満足な入れ歯が作れないのか、どのように改善すべきか、について問題提起した。入れ歯の治療の複雑な流れについてはスライドを用いて詳しく解説。現行の保険点数では時間をかけられないため、いくつかの工程を省略せざるを得ない、これ

では良い入れ歯はできず患者にしわ寄せがいついてくるという話には大きな反響があった。また昨年十月に開いた歯科技工士会との懇談会により、技工所の八割近くが一人勤務で毎日深夜十二時過ぎまで働いていること、不採算部門のため義歯をつくる技工士が段々少なくなり、卒業一年目にして三人に一人が転職しているなどの厳しい実態を知った。

このような悪循環を断ち切る、技工士の就労実態や

待遇の改善のためにも、医療費の総枠拡大により義歯の保険点数の大幅引き上げを国民運動として、住民、(事務局 神田)



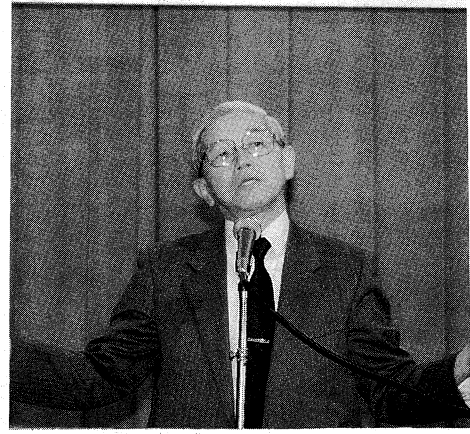
## 「保険で良い入れ歯を」

「保険で良い入れ歯を」運動のための患者教育に最適

大阪歯科協会の理事がキャスターの橋本のぶよさん(歌手)との対話形式で、入れ歯の製作過程や診療報酬について分かりやすく説明します。特に実際の患者さんを相手にした印象採得、咬合採得、試適などのシーンは、一般の住民にとっては普通見ることができないもので、迫力があります。また入れ歯についての考え方や診療報酬との関わりなど、「保険で良い入れ歯を」運動を理解する上で不可欠の内容が盛り込まれています。待合室の患者教育ビデオとしてご利用ください。

- 規格 VHS
- 時間 30分
- 価格 3,000円 (送料別)
- 制作 保団連
- お申し込み  
石川県保険医協会  
TEL 0762 (22) 5373

# シンポジウム



「都市全体を公園のように」と題して講演する宮本憲一氏

# どうする! — 金沢城周辺跡地 市民シンポで熱い討論

二月二十八日、石川県立社会教育センター四階講堂で、「尾山御坊・金沢城跡とその周辺の街づくり」をテーマに、シンポジウムが開かれた。

このシンポジウムを主催したのは保険医協会も参加する「老後問題を考える石川のつどい」と日本科学者会議石川支部で、ほかに金沢経済同友会、石川県自然保護協会、石川県教職員組合など十団体が賛助団体として参加した。講師には金沢にゆかりの深い大阪市立大学教授の宮本憲一氏と岩波書店社長安江良介氏二人を招き、金沢城周辺跡地の街づくりについてそれぞれ講演いただいた。

また、各団体・個人からの提言や、主催者を代表して北陸婦人問題研究所所長の梶井幸代氏と二人の講師との鼎談(ていだん)も行われ、参加者二八〇人に対して行ったアンケートには、「金沢にとって重要な土地であることを再認識した」との感想が多数寄せられた。

## 都市全体を公園のように

宮本氏

最初に宮本憲一氏による「都市全体を公園のように」——金沢城周辺跡地利用について——と題した講演が行われた。

宮本氏は、二十一世紀は環境保全の世紀であり、その先進例が各国でみられていると前置きし、都市の中に公園を作るのではなく、都市全体を公園化するというミラノのパルコ化構想を例に上げて、金沢の都市作りについて提言した。

すなわち、個別に環境を整備するのではなく、金沢市全体を公園のようにとの発想を堅持しつつ金沢城周辺の跡地利用を考えなければならぬということである。

金沢市は、もともと自然環境や歴史・文科的環境に恵まれ、それぞれの価値についてアイデンティティがあり、都市の「格」は高いと評価する。しかし一方、このようなアイデンティティは自覚されたものではなく、近年の都心人口の減少や高層化・駐車場化による町並み・景観の「東京化」、都心の教育・文化施設の郊外への移転を始めとする都市の空洞化は、金沢を危機に陥れていると警告した。

金沢城から金沢大学が移転し、県庁や付属小・中学校が移転することは、この都心空洞化を促進する。従ってこの跡地利用こそが金沢の都市の「格」を維持するための重大な岐路であると断言した。具体的には、まず市民の間で十分な議論が必要とした上で、例えばコミュニティカレッジ・教

養部、大学院(夜間大学院を含む)、同窓会館、文化交流センター(市民大学などの大学提供のもの)、大市民間共同研究所などを提議案。また、天守閣の復元など観光施設を設置を望む声もあるが、これは金沢の品位を下げます。それよりも森林公園にすることをの方がよいと強調した。

## 百年、二百年先を考えた利用を

安江氏

続いて金沢出身で、しかも金沢大学在学中に宮本氏を師としたことがあるとい



金沢城周辺の街づくりについて講演する安江良介氏



尾山御坊・金沢城跡の保護と活用について提言する石川考古学研究会の河村好光氏



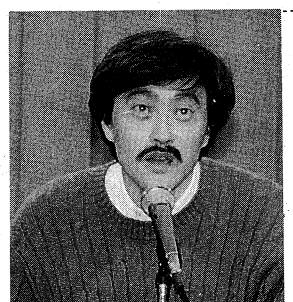
金沢御堂から金沢城への歴史的背景と、その価値を提言する北陸歴史科学研究会の木越隆三氏

家が中心にかかわってきたと言った過言ではない。しかし建築家は都市全体を考えた建築は考えていない。例えば建築物の耐用年数においても、せいぜい五、六十年位でしか考えていない。ヨーロッパのように中世から現在までの五百年、六百年とまではいかなくとも、百年、二百年という長期の耐久性を基本として考えた都市づくりをして欲しいと述べた。

## 都市づくりは市民の総意で

市民の総意で

両演者ともに、基本的には同様の意見であり、しかも参加者にとっては漠然とした願いが論理的な確信に至らしめられる意義深い講演であったことが、参加者アンケートから読み取ることができた。



演劇人の立場から庶民文化の復権と、歴史的遺産を活性化できる街づくりについて提言する青梅康男氏



跡地全体を自然林を最大限温存した公園として子孫に残したいと提言する石川県自然保護協会の木村久吉氏

## 老人医療の一部負担金改定

四月一日から次のとおり改定されます

(入院)	六〇〇円	七〇〇円	物価スライド制
(外来)	九〇〇円	一、〇〇〇円	
(一日)	一九九三年三月まで	一九九三年四月～	一九九五年四月～

## 会員 訃報

上田忠良 先生(金沢市・内科)

享年六十九歳 二月二十五日ご逝去  
慎んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます

各団体・個人からの提言





健康法は歩くこと。粟崎から金沢駅までなら歩いてしまいます…と荻野知己先生

# おねおね

59

荻野知己  
先生の巻

おぎの胃腸科クリニック院長  
金沢市粟崎町2丁目402

## 毎日が充実しています

今月は金沢市粟崎で「おぎの胃腸科クリニック」を開業する荻野知己先生をお訪ねしました。先生のご自宅におじゃまして、奥様とご一緒にインタビューに応じていただきました。

— さっそくですが、先生のご略歴をお聞かせください。  
卒業は金沢大学で、一九六九年です。当時は学園紛争の時期で、事情もあり、東京女子医大の中山恒明教授のもとで外科を学ぶことになりました。主に、食道癌の手術、消化器癌のX線学的診断の分野で仕事をしました。しかし、自分の生の近くに居なければならぬという気持ちがあり、一九八〇年十月に金沢大学がん研究所外科に入局しました。長く医育機関に勤務していましたが、開業するかどうかについては当然悩みました。しかし、自分の生き甲斐ということを考えて、私にとっては、実際の診療に、より直接にタッチできる開業のほうが楽しい。



奥様(右から3番目)、スタッフの方々とご一緒に

— 開業しますと、奥様のご苦労も多いと思いますが、いかがですか。  
(奥様) 開業するときは主人が「やりたい」というので、まあなんとかなるだろう、くらいに思っていたのですが、開業してからは想像以上に大変です。— 実際に開業されてからのご感想は。  
私自身としては、自分の身に合ったというか、自分の決心したことが間違いでなかったと思っています。楽しいですし、毎日が充実していて開業して良かったと考えています。

— 健康法などありましたらお教えください。  
実は開業してから五キロ太りました。(笑い)やっぱり運動しないんです。でも、もともとスポーツが嫌いなものだから。(笑い) 強いて健康法といえば、歩くことです。粟崎から金沢駅ぐらいだったら歩いてしまいますよ。  
(奥様) 主人の食事には気を使います。あまり太らないようにとか注意しているんですが、太っちゃうようなものが好きなんです。(笑い) それが困ります。  
— ご趣味はなんですか。  
機械いじり、オーディオとか写真撮影が好きですね。管球式のラジオなんかながめていたりするのがいいですね。今で言うオタク族というんでしょうか。(笑い)

おられることなどございますか。  
特にありませんが、少しの患者さんですけど、病状を分かりやすく説明して、医師の独走に走らないようにしています。  
— 健康法などありましたらお教えください。  
実は開業してから五キロ太りました。(笑い)やっぱり運動しないんです。でも、もともとスポーツが嫌いなものだから。(笑い) 強いて健康法といえば、歩くことです。粟崎から金沢駅ぐらいだったら歩いてしまいますよ。  
(奥様) 主人の食事には気を使います。あまり太らないようにとか注意しているんですが、太っちゃうようなものが好きなんです。(笑い) それが困ります。  
— ご趣味はなんですか。  
機械いじり、オーディオとか写真撮影が好きですね。管球式のラジオなんかながめていたりするのがいいですね。今で言うオタク族というんでしょうか。(笑い)

## レベルアップをめざして

— 開業してからは、自分の身に合ったというか、自分の決心したことが間違いでなかったと思っています。楽しいですし、毎日が充実していて開業して良かったと考えています。  
— 医院を拝見させていただけますが、内視鏡にはずいぶん力を入れていらっしゃるようですね。  
もともと外科医なもので

— 保険医協会にコメントをいただけますか。  
保険審査の厳しかった時代に、協会が医師会とは違った立場で開業医を守ってきたこと、より良い医療のために貢献してきたことを聞いています。今後も頑張りたいと思います。

— 最後に今後の抱負について。  
私は金沢大学がん研病院の研修登録医第一号なんです。いろいろな問題もありますが、大学や専門病院との関係を続けていくことも、自分のレベルアップにつながります。ひいては良

共済部だより

## 保険料未納にご注意ください

毎月の共済制度保険料に未納があった場合、以下のような手続きを行っています。ご注意、ご協力をお願いいたします。

◎保険医年金〈引き去り日：毎月26日〉

→未納が通算で6回になった場合、脱退扱いとなります。「払込中断」の場合は、必ず書類提出が必要です。

◎休業保障制度〈引き去り日：毎月26日〉

→未納が通算で2回(猶予期間)満了日の翌日から、加入者のすべての権利が失われます。(規定54条)

◎グループ保険〈引き去り日：毎月25日〉

→未納が2カ月になった場合、最終入金月の末日をもって失効となり、脱退となります。(約款15条および30条)

銀行口座変更や転居、県外への転出などの場合は、お早めに協会までご連絡ください。

※共済制度に関するお問い合わせは、保険医協会共済担当(大川)までご連絡ください。(☎0762-22-5373)

い医療につながると思っています。時々メスも持っていますし。  
荻野先生、奥様には、診療でお疲れのところを一時間余りにわたってお話しいただき、本当にありがとうございました。八時過ぎにお宅を辞するとき、降りしきる雪の中をお見送りし、聞き手/小森 貴(金沢市・耳鼻咽喉科)

# 栗野利雄先生の 記念碑めぐり [37]

## 小丸山城址記念碑

(七尾市・小丸山公園内)

七尾市内には七尾城址のほか小丸山城址(現在は小丸山公園)のあることを忘れてはならない。七尾城が山岳地形を利用して築いた山城ならば、小丸山城は交通に便利な独立丘陵上に立った平山城である。東に御坂(みそぎ)川を巡らし、西に桜川を配する。北に七尾湾と能登島を間近にして東には七尾城址や石動山を一望する要害の地である。

### 信長から能登を配領 前田利家が築城

一五八二年(天正九年)三月、織田信長から能登を配領した前田利家は、当初は畠山氏の山城七尾城にあったが、政治・経済の利点を第一義として小丸山築城に着手した。しかし、一五八四年(天正十一年)四月、信長本能寺の変の後、その後継者となった豊臣秀吉から加賀二郡(石川郡、河北郡)を増加されるにあたり、小丸山築城を中止し金沢城へ移城した。その

後、利家の兄の安勝および子の利政を小丸山城主に据えるが、その後配布された一國一城制により

廃城となる。戦後のドラマはここにない。小丸山築城前の同所には気多大社本宮が

鎮座しており、これを他に移して築城したものとされる。



小丸山城址記念碑と、取材する栗野利雄先生(左)と安藤良一先生

## 会員創作コーナー

### 人物スケッチ

## ある小児科医

〇・ひろし

その町はずれの国道は、当時、まだ舗装がされていない砂利道で、道幅も狭く対向車とすれ違うのがやっとの感じであった。路肩は一段と低く、縁に生えた雑草は側溝の上に覆いかぶさっていた。医学部を卒業して間もない和義は、古いブルーバードを運転してその道に通り掛った。無免許である。自動車運転教習所は卒業したのだけれども、実地試験での坂道の発進でギアを入れ間違えて、ニュートラルのままブレーキを離してアクセルを踏んだので「ブアー……」という大きなエンジン音とともに彼

の試験車は必ずするとバックして、坂道の登り口に止まっていた後退車にぶつかって退場となった。そんなわけで練習のため無免許運転をしていたのである。その時、運悪く向こうから警察のパトロールカーのジープが連なってやってきた。(さあ、大変だ。一台のパトカーでも一回は免許証を見せろといわれろの) そう思うと、無意識に車を左に寄せて除行した。一台、二台、三台、ああ、パトカーはまだ続いている。彼は恐怖で思わずハンドルを切りすぎた。車は、ついにガタンと側溝を乗り越え、パシヤッと田んぼに落ちてしまった。通常、和義は絶対に「悪いといわれること」はしなかった。しないというより、そうする事が念頭に浮かばないのである。これは厳しかった父親のせいなのかもしれない。彼の父は理想主義者であった。町内の少年団を結成してスポーツや奉仕活動を通じて青少年の心の健全育成に心掛けた。自分の子供を集団の中で育てようとしたのである。和義が高校に入學すると、自宅に医学部の学生を四人も下宿させ、環境を整備した。その甲斐あって出来上がった一人の医師が和義であった。善い行為は、他人の幸福を増進するものであって、他人に対する思いやりを持たずに自分の快楽や幸福

を追求すべきでないとい彼は考えていた。しかし、道徳的行為にはタブーがついてまわり、ついに、「タブーを守ることに自分や社会の幸福になると信じるようになった。しかし、欲求とタブーは常に衝突して、彼が善人になろうとすることは決して生易しいことではなかった。そんな和義も小児科を開業してから数年がたった。経済的にも安堵した時に、日ごろの生活以外にも別の時間と空間があってもいいのではないかと欲望がでて来て、若い女性の誘惑に負けた。「私の言うことを聞いてくれないのなら、私たちが女を野心からくるこの一言は彼を苦しめた。そんなある日、診察を終えて自宅へ帰った彼に、奥さんが言った。「あなた、今日、女の人から電話があったわよ」彼は、もうこれまでと観念して、これまでのいきさつを話し、両手をついて妻に詫言った。奥さんは案に相俟して寛大に許してくれた。そして彼女が家計簿の間に、そっとひそかにはさんだメモ用紙には、次のように書かれてあった。「梅ヶ丘高校同窓会についての打ち合わせ。相模悦子 電話(63) 5375」

### 熱傷の術後創傷処置も所定点数の三倍に

《診療報酬改定情報》  
本年三月一日付厚生省通知(保険発第十七号)により、術後創傷処置についても、熱傷の場合には創傷処置と同様に、所定点数の一〇〇分の三〇〇に相当する点数により算定できることになった。適用は四月一日から。(甲表、乙表共通)これは昨年六月に保団連が、今年二月に北信越ブロックが厚生省に不合理是正を要求したもので、具体的な成果となった。

### 編集長を命ぜられて

よろしくお願ひします

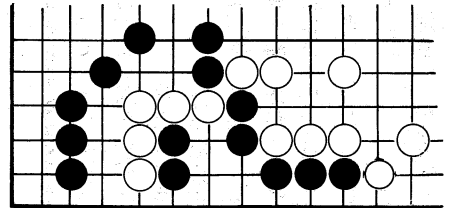
小森 貴

このたび柳下先生の後を受けて、機関紙・文化部長を命ぜられました。これまでの石川保険医新聞の歩んできた足跡を思いやりみますと、その重責に身の引き締まる思いです。保険医新聞は、機関紙としての使命はもちろんですが、なによりも会員に親しまれ読まれる新聞

責、ご批判を糧と致したく、重ねてお願い申し上げます。(金沢市・耳鼻咽喉科)

## 碁

出題者  
六段 向井富治 (金沢市・内科)



篠田晤六段と乗岡栄一六段の対局に現われました。黒番でどうなりますか。(解答4面)